

い し だ ひ で み  
**石田 秀三** です  
 こんにちは  
 市議会議員



石田秀三さんは  
 こんな人

中小業者の味方

私は、鈴鹿民主商工会の事務局長として中小業者の相談を主な業務にしています。

コメを作り自給自足

日本共産党の市会議員の方々には、中小業者の現状をよく理解していただいている、鈴鹿市へ要求していただいている事が中小業者の営業を守るためにも大切だと感じています。また会員へは寄り添った相談をしていただいている、助かっています。これからも中小業者の営業を守っていくためにも日本共産党の市会議員の方々が鈴鹿市には大切な議席です、応援していきます。

鈴鹿民主商工会  
 事務局長 前田崇訓

- プロフィール
- 1953年（昭28）伊船町で生まれる 神戸高校、静岡大学人文学部卒
  - 1972年 大学在学中に日本共産党に入り、学生自治会で活動
  - 1975年、鈴鹿市役所に入り、耕地課、公民館（現市民センター）、図書館などで12年間勤務、職員労働組合役員も務める。
  - 1986年末、市役所を退職し、市議会議員に立候補。
  - 1987年、初当選。以来7期連続当選。今期は生活福祉常任委員長、防災安全特別委員長、国保運営協議会長など歴任。
  - 現在、党鈴鹿市委員長、北勢地区常任委員、9条の会すずか世話人。
  - 家族は、妻、母、敷地内に長男一家5人。（長女、二男は独立。）
  - 趣味は山歩き、読書など。

ごあいさつ  
**住民こそ主人公  
 安心して暮らせる鈴鹿市に**

鈴鹿市役所を退職し1987年、34歳で市議会議員に初当選。以来7期28年、市民のみなさんの代表として働いてきました。毎議会かならず質問に立ち、のべ111回（2014年12月まで）、4代の市長と議論をたたかわせてきました。

今期も多くの問題を取りあげ、住宅リフォーム助成事業、土地開発公社の保有地の処理、特別職の特権的退職金の見直し、などの成果を得ました。共産党市議団としては、子ども医療費無料化の年齢引き上げ、国保税の引き上げ案の撤回、学童保育は「公設を基本」とする改善、今年の「戦後70年」事業への取り組み、などを森川議員

庶民の暮らしを守って



東日本大震災で救援活動、温室の泥出し

石田さんとは、学生時代からの知人であり、年金者組合の山登りのサークルの仲間です。年金で生活している私たちがとって今の行政はとって冷たいですね。唯一の収入である年金は年々下げられ、これから介護保険・国民健康保険・医療費の値上げが予想されます。買い物にしても物価が上がり生活はさらに苦しくなっています。

こんな私たちの暮らしぶりに目を向け、親身になって相談に乗り、市へ代表として堂々と意見を言ってくれる石田さんを是非市会へ送ってください。

鈴鹿年金者組合副委員長  
 自由が丘 桑原 篤

と共に進めました。

初当選からの公約「中学校給食」が、いよいよこの5月からスタートすることは、何よりうれしいことです。

「愛情弁当」一本やりだった市教委や多くの議員の考え方を、「実現する会」のお母さんたちと共に、何回でも議論して変えてきた、粘り強い運動が実を結びました。

一方、国政に目を転じると、安倍内閣による庶民の暮らし破壊、「戦争できる国」づくりへの暴走は目に余るものがあります。私は地方政治にたずさわる者として、また平和と民主主義を守って90年余たってきた歴史ある日本共産党の一員として、この悪政から市民を守るために全力で頑張ります。

これからも「住民こそ主人公」を信条に、活動していきたいと思えます。皆さんの変わらぬご支援を、どうかよろしく願います。

いっしょに  
**実現させましょう**

- ◎子ども医療費無料を中学校卒業まで、窓口無料に
- ◎高く払えない国保税の引き下げを
- ◎介護サービス切り下げさせず、お年寄りが安心できる介護に
- ◎市民の足、Cバスの充実を
- ◎非正規労働なくし、青年に仕事を
- ◎東西南北に図書館分館を
- ◎学校の全教室にエアコン設置を

市民の声とどけて

議員活動の合間をぬって、コメや野菜づくり、シネマ、山登りなど楽しみながら健康づくりをしてみえるからでしょう。常にリフレッシュした力で、市民のために私たちの声を届けて、大奮闘してくれる大切な人です。

いま、安倍政権のもと、平和やくらしが大変悪くなっています。未来ある子どもや若者を戦場に送らない！お年寄りが心配なく暮らしていける世の中づくりを！私たちがいつしよになって応援します。

主婦（国府町）藤本明子



介護施設で歌のボランティア

# 住民のための政策を提案 市民のねがい実現までがんばります



完成間近な中学校給食センター

## 中学校に完全給食 5月からいよいよスタート

28年前の初めての選挙で「中学校給食の実現」を公約として訴えた石田議員。当時の衣斐市長や教育長と本会議で「愛情弁当」論争を行うなど、何度も実現を求め、95年から森川ヤスエ議員も加わって、99年「中学校給食を実現する会」の1万4千人

の請願署名が、賛成4で不採択となってもあきらめず、運動をつづけました。市民の声の高まりに川岸市長が05年始めた、弁当を販売する「ランチサービス」は不評で利用率低迷。党市議団はこれを批判し「本当の給食を」と追及、市は08年「検討委員会」を開き、10年3月、

ついに完全給食実施の答申が出されました。そして11年就任した末松市長が給食センター建設計画を具体化、やっと15年5月からのスタートとなりました。石田議員は、「長いことかかりましたが、市民の要求をかかげ続けてきた甲斐があります。子どもには間に合わず、孫の代に実現しました。市直営でなく民間委託になったことが、今後の課題です。」と語っています。

## 住宅リフォーム助成事業

### 2年で4500万円助成 波及効果は8億円

長引く不況にあえぐ建設業者のみなさんに「仕事起こし」の対策として、石田議員は「住宅リフォーム助成」を2010年に提案しました。市は12年度に事業化しましたが、上限5万円という低さが不評で、予算3千万円を1300万円も残しました。石田議員は改善を求め、翌13年度は上限10万円に引き上げ、応募がふえて2860万円の助成となりました。2年間の助成でリフォーム工事は765件、工事総額は8億3700万円、助成金の18.5倍の波及効果となり、業者にも市民にも喜ばれました。

## 土地開発公社の「塩漬け」土地の処理をすすめる



バブルの時期に買いあさり、利用のめども立たずに10年以上保有しているだけの土地が、土地開発公社に多くあり、市の「隠れ借金」もなっています。石田議員は11年9月議会で、保有地を放置せず、「オール市役所」で売却や活用を検討することを提案しました。市は「土地開発公社経営健全化検討委員会」を立ち上げ、12年度から3年間で8.7ha、35億円分を売却、また土地開発基金17億円も活用して、借入金を45億円へりました。まとまった土地を老朽保育所の移転用地にしたり、借地にしていた伊船工業団地も企業へ売却をすすめています。

石田議員は、「担当課ごとのバラバラでなく、オール市役所で知恵を出し合うことで処理が進んでいきます。ほかの仕事にも応用できる方法です。」と話しています。

## 特権的な市長の退職金 15%引き下げる

石田議員は、市長はじめ特別職の退職金が、一般職とちがう算定方法で1期4年ごとに支給されることを「特権的だ」と批判し、一般職と同等にすることを求めています。川岸前市長は05年に10%引き下げ、2116万円から1904万円となりました。末松市長にも見直しを求め、市長は13年に「15%引き下げ」で1618万円となりましたが、依然として高額に変わ



本会議で質問に立つ

りありません。一般職員が一生働いて受け取るものを、4年でもらえる制度そのものが特権的なのです。（議員は退職金なし）

## おかしいことはズバリ指摘、改善策も示す

石田議員は、市民に番号を付けて個人情報権力が管理する「マイナンバー」制度、採算の見直しもなく環境破壊、財政破たんを招く「リニア新幹線計画」、子どもを競争に追い立てる学力テスト「みえスタディチェック」、いつまでも「部落差別」の看板を立てていることなどについて、市民の視線から見えておかしいものは「おかしい」と指摘、中止や見直しを求めています。

また石田議員は、道路や水路の工事への「地元負担」をなくすこと、急増する空き家への対策として「空き家条例」の制定、高齢者福祉のネックとなる「広域連合」は解散して市の仕事に戻すこと、など積極的な提案もたくさん行っています。



議員団で街頭宣伝